

令和七年度入学者選抜学力検査問題

国

語

(一時間目 六十分)

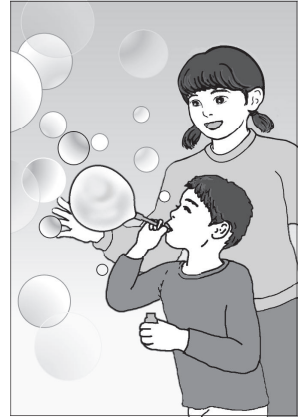
注 意

- 一 問題用紙と解答用紙、メモ用紙のそれぞれの決められた欄に、受検番号と氏名を記入しなさい。
- 二 問題用紙は放送による指示があるまで開いてはいけません。
- 三 問題は1ページから6ページまであります。これとは別に解答用紙とメモ用紙がそれぞれ一枚あります。
- 四 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号

氏
名

一 「聞くこと」に関する検査



〔題材とした写真〕

二 次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。

農業は県の基幹産業^①として、地域経済の活性化や、地域社会の維持に大きな役割を^②ハたしているが、従事者の高齢化^③などによって労働力不足は避けられない状況にある。したがって、今後、人手に頼る農業から、デジタル技術を活用した農業への移行を、より一層推進していくことがフカケツ^④である。

1 維持^① 避け^③ の読み仮名を書きなさい。

ハたし^② フカケツ^④ を漢字に直して書きなさい。

2 基幹 の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア 中立 イ 中間 ウ 中級 エ 中心

3 大きな の品詞名を書きなさい。

4 高齢化 と構成が同じ熟語を、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア 非公開 イ 積極性
ウ 再出発 エ 市町村

三 次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。

四

次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。

五 次の【A】【B】は、弟子への教え方について書かれた文章である。これらを読んで、1～4の問いに答えなさい。

【A】
去来きらい曰いはく、①先師せんしは門人に教へ給ふに、あるいは大いに替りたる事あり。譬たとへば、予に示し給ふには「句々さのみ念を入るるものにあらず」。また「二句は手強く、俳意たいし慥かに作すべし」となり。凡兆ばんちょうには「一句わづかに十七字、一字もおろそかに置くべからず。俳諧もさすがに和歌の一体なり。一句にしをりのあるやうに作すべし」となり。(やはり)
(余情)

是は作者の気性と口質によりてなり。

【注】 * 去来、凡兆……松尾芭蕉の弟子
* 先師……松尾芭蕉

(「去来抄」による)

【B】
公西華こうせい曰はく、「由や問ふ、『聞くがままに斯に諸を行はんか』(公西華が孔子にお尋ねした)」
子曰はく、『父兄いまい在す有り』と。②求や問ふ、『聞くがままに斯(父や兄の意志を尊重しなくてはならない)に諸を行はんか』と。子曰はく、『聞くがままに斯に之を行へ』と。③赤や惑ふ。敢へて問ふ』と。子曰はく、「求や退く。ゆゑに之を進む。由や人を兼ね。ゆゑに之を退く」と。
(人の分まで行う)

【注】 * 公西華、由、求……孔子の弟子
* 赤……公西華のこと

(「論語」による)

1 曰はく、ゆゑに を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

2 【A】の大いに替りたる事あり について、次のようにまとめた。「a」「b」に当てはまる内容を、「a」には二字で、「b」には三字で、【A】の本文中からそれぞれ抜き書きしなさい。また、「c」に適する内容を、五字以内で書きなさい。

芭蕉は、俳諧について、去来に対しては、そんなに念を入れず、しっかりとした句調で、「a」がはっきりと表れるようにつくりなさいと教えているのに対し、凡兆に対しては、「b」のうち一字もおろそかにせず、和歌と同じく、「c」ようにつくらなければならぬと教えている。

3 【B】について、「聞くがままに斯に諸を行はんか」という質問に対し、孔子が弟子たちに答えた内容を次のように整理した。「I」「II」「III」「IV」に当てはまる内容の組み合わせとして最も適切なものを、後のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

	由		答え	
		(I)		
求		(III)		理由
			(IV)	

ア	I	よい	II	でしやばりだから
	III	よくない	IV	引つ込み思案だから
イ	I	よい	II	引つ込み思案だから
	III	よくない	IV	でしやばりだから
ウ	I	よい	II	引つ込み思案だから
	III	よくない	IV	でしやばりだから
エ	I	よい	II	引つ込み思案だから
	III	よくない	IV	でしやばりだから

4 弟子への教え方について、芭蕉と孔子に共通している点を、
解答欄にしたがって**十五字以内**で書きなさい。

六 あなたは、読書の魅力をどのように考えますか。これまでの
読書経験を踏まえ、次の**〈条件〉**にしたがって書きなさい。

〈条件〉

- ・ 題名は不要
- ・ 字数は二百字以上、二百五十字以内